

# 広報市民リポー



三浦リポーター

## 農業廃棄物による環境問題について

リポーター 三浦光子さん（上代野）

大館地区の農業廃棄物の回収は六月二十二日にJAあきた北配達センターで行われました。農家の人たちがトラックに積んできた農業廃棄物を計量器で計り、処理費

J Aあきた北女性部では二年前からJAあきた北役員と語る会で農業用廃棄物を回収していただきたい旨を要望していたところ、本年六月から回収が行われました。

廃棄物の処理および清掃に関する法律の改正により、農業用使用済みのビニール類が産業廃棄物として取り扱われることになり、農家自らの責任で適正に処理しなければならなくなりました。これまで農家は肥料袋や農業用廃ビニール類等の処分については、ほとんど野焼きにしたり、畑の隅に放置している状況でありました。しかし、法律の改正により野焼きができなくなるとともに、煙や灰の中にも、高い濃度のダイオキシンが含まれていることが判明しました。

JAあきた北女性部では二年前からJAあきた北役員と語る会で農業用廃棄物を回収していただきたい旨を要望していたところ、本年六月から回収が行われました。回収現場を訪ねて

JAあきた北女性部では二年前からJAあきた北役員と語る会で農業用廃棄物を回収していただきたい旨を要望していたところ、本年六月から回収が行われました。回収現場を訪ねて

集められた使用済みビニールなどの農業廃棄物

## 廃棄物処理場を訪ねて

七月二十八日、塩化ビニール類を中心とした廃棄物の処理を行っている同和クリーンテックス株式会社の片岡総務課長さんと米沢主任さんからお話を伺いながら、ビデオで中間処理システムを見せていただきました。その後、中間処理システムの工場を案内していただき、設備とパンフレットを照らし合わせながら説明していただきました。ここでは、一般家庭から分別収集

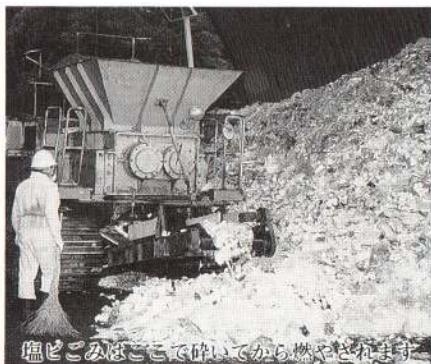
された廃棄物や農業用廃棄物などを破碎機で細かく碎いて燃えやすいものと燃えにくいものをブレンドして焼却するそうです。燃えやすいものばかりだと高温になり、焼却炉の痛みが早くなるからとのことでした。一般家庭から分別収集された廃棄物の中には車のバッケミラーや鉄の棒などが入っていました。今回はありませんでしたが、スプレー缶が入っているときもあり、ガスが残っていると大変危険だそうです。「私ひとりだけは絶対にやめてほしいと思います。廃棄物の焼却は八〇〇度から一、〇〇〇度までの温度の違う三つの焼却炉で行い、焼却に伴う排ガスは冷却塔で一〇〇度まで急冷することにより、ダイオキシン類の再合成を防止するそうです。その後二段階の洗浄塔で苛性ソーダにより洗浄し、湿式電気集塵機でちりを取り除いてから大気に放出するので、ダイオキシンの濃度は国の規定基準〇・八ピコグラムを大幅に下回っているとのことでした。そのお話を聞いて安心して同和クリーンテックスを後にしました。

皆さんのが何気なしにしているごみは、いろいろな設備と多大な労力をかけて安心できるものに変えられています。ごみを出すときはしっかりと分別し、容器はきれいに洗うように心がけたいものです。また、私たちがよりよい生活環境の中で快適な毎日を過ごせるようお願いいたします。

最後に、今回の取材に当たり、ご協力をいただきました皆様方に心から感謝申し上げます。



片岡総務課長(右)から話を伺う三浦リポーター



塩ビごみはここで碎いてから燃やされます